

大学図書館による展示

SALA 加盟図書館所蔵資料展示会

■跡見学園女子大学図書館

<『百人一首』で遊ぼう！>

跡見学園女子大学図書館は、3,000点を超す「百人一首」コレクションを有し、その規模とバリエーションは国内有数を誇っています。そのコレクションを学生の中に広め、さらに広く学内外に広報しようと図書館に「かるた部」を作ってもう5年になります。

今回の展示は江戸期に作られた「百人一首双六」をビニールシートに印刷、テーブルゲームのように遊べるように工夫しました。来場者の方々にはその双六ゲームで「かるた部」学生と遊んでいただくという企画でした。

大変多くの方々に挑戦していただき、数名の方が「上がり」まで到達されました。

一般にはかるたのスタイルで知られている「百人一首」ですが、こういう双六という形態もあったのかと、知っていただき改めて「百人一首」の奥深さを知っていただくことができましたと思います。

写真は当日ご来場いただいた作家の朝井リョウさんとのショットで、朝井さんのファンの学生は非常に感激した様子でした。



写真中央の袴姿の女性3名は、跡見学園女子大学かるた部の学生です。

■国立女性教育会館

<女性アーカイブセンター10周年>

国立女性教育会館（NVEC）は男女共同参画社会の形成を目指して活動する独立行政法人

です。「研修」「調査研究」「広報・情報発信」「国際貢献」の4つを有機的に連携させつつ各事業を実施しています。

男女共同参画社会の形成に顕著な業績を残した女性・全国的な女性団体や、女性教育・男女共同参画施策等に関する史・資料を収集する女性アーカイブセンターは開設されて今年で10周年ということで、アーカイブセンター紹介ポスターや所蔵史料の複製物を展示しました。

その他に最新事項を盛り込んだ男女共同参画すごろく（電子版）の紹介や、SDGs さんかくしおりの配布を行いました。



■埼玉医科大学

<丑之助先生と解剖学>

解剖学はすべての医療従事者が学ぶ重要な学問の一つです。今回は、埼玉県出身で本学の解剖学教授であった金子丑之助の著書と西洋・日本の解剖学書の展示を行いました。

解剖は一般の方には余り馴染みがないと思いますが、金子丑之助が埼玉出身であると説明すると場の雰囲気が良くなり、親しみをもってもらえたように感じました。

そのほか、本を開くと心臓の鼓動の音がする「Alive : 生きている体」や「筋肉かるた」、「骨かるた」といった子どもも学べる資料を展示し、好評でした。



■埼玉大学

<埼玉大学は 2019 年で創立 70 周年>

埼玉大学は、1949（昭和 24）年の創立から 2019 年で創立 70 周年を迎えます。

創立当時から現在に至る歴代の学長、図書館長をご紹介し、部局等の変遷、卒業生等の活躍を記載した年表を掲示しました。

また、ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章氏（1981 年理学部卒業）、文化功労者に選出された小松和彦氏（1970 年教養学部卒業）、日本芸術院賞受賞の根岸右司氏（1961 年教育学部卒業）を紹介した記事や著作物の一部を展示しました。



■芝浦工業大学

<SHIBAURA MOTOR SHOW 2018>

本学の運転支援システム研究室では、自動車業界で研究・実用化が進められ、今後も発展が期待される「自動運転」に関する研究をしています。こういった取組を紹介すべく、学生が製作した自動制御システム搭載のミニ

チュア自動車を中心に、自動車や機械制御についての図書資料を展示しました。

今回展示したミニチュア模型には、スイッチを入れて走らせると、壁などの障害物を感知して自動で止まる「自動ブレーキ」システムが組み込まれています。実際に稼働させることもでき、来場された方々も興味を示しておられました。「自動ブレーキ」システムは、CM で流れていたり、自家用車に搭載されていたりするため、身近に感じられる方も多く、「私も運転するからよく理解しないといけない」、「自動運転はどのレベルまで実用化していますか?」といったコメントやご質問をいただき、学生と来場者の交流も深まったようです。

【人気のあった展示資料】

『世界の自動車大図鑑』 ISBN: 9784777053117

『クルマはかくして作られる』 ISBN: 4544910021



■城西大学

<江戸時代の娯楽としての『数学』>

江戸時代にはいろいろな遊びがあったようですが、その中のひとつとして「数学」に関わる娯楽があったようです。今回は江戸初期の数学書『塵劫記』（復刻版）のほか和算関連の資料を展示しました。また、実際に『塵劫記』に掲載されている「油分け算」など当時の数学遊戯を、現代風にアレンジしたゲームが好評で、たくさんの方に楽しんでいただきました。近寄りやすい印象のある「数学」を楽しめる道具というイメージに変えて頂くと同時に、江戸庶民の文化的な生活の一面を感じていただけたのではないかと思います。

大学図書館による展示

【主な展示資料】

『塵劫記』（復刻版）、『江戸子ども学びの風景展』、『尋常小算術』、『江戸庶民の数学』他



■聖学院大学

<創立 30 周年 聖学院大学のあゆみ>

聖学院大学は、女子聖学院短期大学に併設して 1988 年に 10 か条の「聖学院大学の理念」のもとに開学しました。2003 年には学校法人聖学院の 100 周年を記念する事業として短期大学時代からの念願であったチャペル（礼拝堂・講堂）および附属施設の建設に着工。翌 2004 年 10 月には竣工して、大学キャンパスが大きく様変わりました。そして 2018 年度には創立 30 周年を迎え、新たなタグラインである「一人を愛し、一人を育む」を発表しました。また、大学と地域の連携に力を入れており、学生が 30 周年記念事業の一環として埼玉県内の企業と協働製作した製品についてコンセプトブックをもとに紹介しました。

展示は開学当初にまつわる資料、チャペル竣工にまつわる資料、30 周年事業にまつわる資料を中心に行いました。また PC でスライドを上映し、キャンパスや女子聖学院短期大学時代から現在までの大学図書館の移り変わりを紹介しました。



■大東文化大学

<ダ・ヴィンチの『解剖手稿』>

「万能の人」レオナルド・ダ・ヴィンチが 500 年前に描いた『解剖手稿』。画家であり科学者である彼が研究していた人体解剖に関するスケッチとメモのファクシミリ版（本学所蔵）を展示した。

ダ・ヴィンチ研究の第一人者で大東文化大学図書館長でもある国際文化学科の田辺清教授が、当日講演された浅井リョウさんをはじめ来場者ひとり一人に丁寧に解説しました。本学ブースには 100 名を超える来場者が見学に訪れ、狭いブース内に入りきらない時もあるほどでした。

【おもな展示作品紹介】

- ① 『女性の主要器官と動脈の構成図』
同時期に模写していたギリシャ神話の《レダと白鳥》のレダのモデルとの関連が考えられる作品でダ・ヴィンチの指紋と思われるものがみられる。
- ② 『頭蓋骨の断面』
ダ・ヴィンチの計測に関する情報が書き込まれている。
- ③ 『ダ・ヴィンチの鏡文字に挑戦！』
ダ・ヴィンチは文字を逆さまにして書いていたので鏡がないと読むのが難しい。



■ものづくり大学

<国宝《待庵》の原寸レプリカ制作>

千利休の作と伝えられる、日本最古の現存する茶室建築である国宝《待庵》について、本学の建設学科・総合機械学科の学生、教職員約 50 名が 5 ヶ月をかけて原寸レプリカを制

作しました。

この原寸レプリカは、2018年4月25日から9月17日の間、六本木ヒルズ・森美術館15周年記念展として開催されていた「建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの」にて展示されました。

今回の図書館と県民のつどいでは、制作過程の映像やパネル、本学の3Dプリンターで制作した鬼瓦の縮尺模型、鍛金で制作した和釘の見本、本学所蔵の茶室についての関連書籍を展示しました。

茶室を学内で仮組してから一度分解し、「建築の日本展」会場搬入後の短い展示替期間の間に再び組立て土壁を塗るという工程の映像や、鬼瓦の模型に触れていただきました。

来場者には、本学の活動や、伝統工法から3Dプリンターまで扱う技術力を知っていただける機会になりました。



■立正大学

<明治の築地 ～幻の築地ホテル館～>

立正大学熊谷図書館では、地理学の大家であった田中啓爾(たなか けいじ)先生が生涯を通じて蒐集された江戸時代から昭和にかけての地図・和装本等の資料を所蔵しています。

今回はそのコレクションの中から、昨年市場が豊洲に移転し話題となった築地に関連する資料として、幕末に開業した日本初の和洋折衷様式のホテル「築地ホテル館」や外国人の居住区であった「築地居留地」を描いた錦絵を中心に展示しました。また、江戸時代の地域別地図である「江戸切絵図」の内、築地近辺

を描いた地図に現在のランドマークを重ねたパネルを用い、当時と現在の位置関係について説明しました。

来場者の方々は、錦絵だけでなく現在の築地との対比にも関心を持たれ、想定外の質問がいくつも飛び出すなど、大変熱心にご覧頂けました。

<主な展示資料>

- 東京築地ホテル館
- 東都築地ホテル館之圖
- 東京府築地鉄砲州居留地中絵圖
- 東京築地保呂留館繁榮之圖
- 築地八町堀日本橋南繪圖
- 横浜土産 …和装本

